

【研究課題】：真菌感染症の病態解明及び検査・治療法の確立に関する研究

【研究代表者】：長崎大学理事・副学長 河野茂

【研究分担者】：宮崎義継（感染研）、三嶋廣繁（愛知医大）、荒岡秀樹（虎の門病院）、渋谷和俊（東邦大）、槇村浩一（帝京大）、望月隆（金沢医大）、亀井克彦（千葉大）、川上和義（東北大）、宮崎泰可（長崎大）、山越智（感染研）、掛屋弘（大阪市大）。

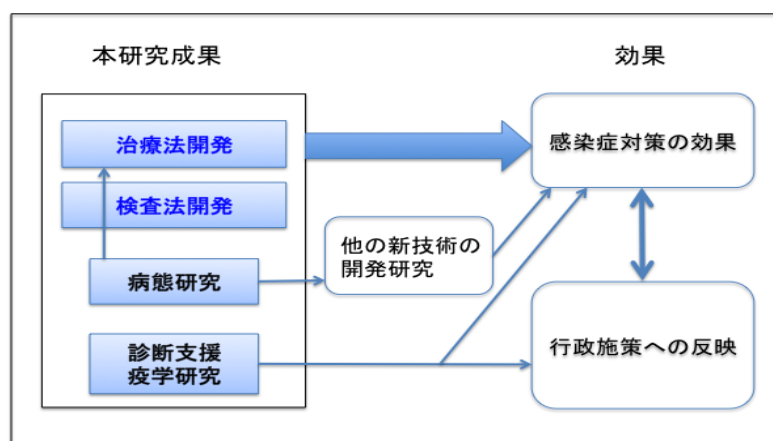
わが国において重要な侵襲性真菌症の検査・診断・治療法の開発を行う。

診断困難な侵襲性真菌症の全国的な診断支援ネットワーク構築を目指す。

目的

わが国の侵襲性真菌症の死亡原因として頻度の高いカンジダ症やアスペルギルス症等の検査、診断・治療薬の開発を目的とする。また、診断困難な侵襲性真菌症に対する診断支援ネットワークを機能させ、侵襲性真菌

症の適切な医療推進や、疫学調査に資することを副次的目標とする。



背景

侵襲性真菌症の原因真菌を同定する検査は、一般の大学や診療機関等では困難な場合が多く、治療薬の種類が限定され死亡率も高い。従って、真菌検査法と治療法の開発研究を行い、並行して診断困難な真菌症の診断支援を行う。

研究計画あるいは研究内容

- ①新規治療薬の開発：抗真菌活性を有する物質をスクリーニングし、複数のコンパウンドの特許申請を目指す。最も効果的な既存薬の薬物投与方法について基盤データを整備する。
- ②診断法の開発：ヒト血清診断の臨床研究を完遂する。また、皮膚真菌症の遺伝子診断法の有効性に関し、臨床試験を実施し、製品化を目指す。病理診断法についても、これまでに開発した分子診断法の有効性を決定する。
- ③病態解明：クリプトコックス特異的T細胞抗原受容体遺伝子発現トランスジェニックマウスを用いて、播種に関与する真菌由来分子を同定する。
- ④疫学研究と診断支援：診断困難例の診断支援を実施し、輸入真菌症や新興真菌症、薬剤耐性真菌等の疫学情報に資する。